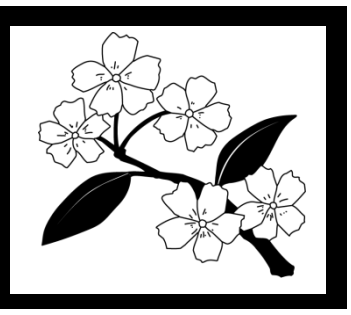
大津市議会会派

第19号（平成26年4月4日発行）

みんなの党大津通信

（発行責任：会派代表 藤井哲也）



ご挨拶

桜の舞う季節。まもなく真野川に百匹の鯉が気持ちよく泳ぎます。その壮観な光景を、多くの皆様ご覧頂きたく念じています。

さてこの度、市の教育長が3月末で辞職しました。その経緯を市民の皆様に知って頂きたいと思い、新たに編集をいたしました。

行政組織でいま何が起こっているのか？市民の皆様にとって本誌が、内部実情を知って頂けるものとなっていましたら、誠に幸甚です。

会派を代表して
市議　藤井哲也

【解説】富田教育長が辞職

大津市の教育部門を率いてきた富田眞教育長が体調不良を表向きの理由に退職を願い出て、市長は即日同意し、3月末で辞任しました。

富田教育長は、前教育長が暴漢に襲われるなど混乱の中で昨年2月に就任しました。メーカー勤務が長く、品質管理分野で極めて優秀な成果を残した企業・個人に与えられる「デミング賞」を受賞。瀬田工業高校で県内初の民間人校長を経験するなどの経歴でした。

就任早々、市教委内で「5S活動」の推進に取り組み、組織品質の向上に取り組むとともに、子ども向けに、「早寝・早起き・朝ごはん」という明快なキャッチフレーズを普及させ、生活習慣の改善から、いじめ対策推進や学力向上に取り組み始めました。

教育委員による学校現場訪問（スクールミーティング）を新たにスタートさせ、教育委員の現場理解を促進し、また、藤井哲也議員が平成24年から提案し続けてきた「コミュニティ・スクール（地域住民による学校運営）」制度の実施を明言し、着手し始めました。

しかし、昨年7月に市長は市教委による「いじめ事案の検証結果」を、提出される前に外部に漏洩し、これを契機に市長との関係は目に見えて悪化しました。

そして、平成26年度予算。市長は**教育委員に事前相談することもなく**、私的つながりがある業者の提案会を開催し、提案された事業に係る予算編成を画策。これに対し教育長は「内容が不透明であり、同意できない」と職を賭して内部通報に近い議会答弁をしました。

大津市の教育にとって、富田教育長を失ったことは大変な損失だと言えます。市教委は明らかに改革が進んでいました。また教育委員も真剣に諸問題を議論していました。（富田教育長就任前は形だけの会）

今回の辞職は表向きは「体調不良」ですが、そうでないのは事情をよく知る者の間では誰もが分かっています。

市長自身が三顧の礼を尽くして連れてきた稀有の人材を辞職に追いやり、挙げくに「改革道半ばでの辞職は残念」とコメントを出す市長。優秀な人材を活用、マネジメントできない越市長は、組織トップの器量、が欠落していると言わざるを得ません。このままでは大津市は本当にダメになってしまいます。

富田教育長就任から辞職まで

平成25年

- 2月19日　教育委員に選任。同日中に教育長に就任。
- 5月7日　教育委員による市内89校園の現場訪問「スクール・ミーティング」を開始。（7月19日まで）
- 7月25日　いじめ問題に関する市教委内の検討結果報告書を市長に提出。この報告書の取り扱いで、越市長のコンプライアンス上の問題を問う声が多数あがり、議会は8月に審査会を開催。
- 8月上旬　市長と教育委員会との連携不足が表面化。
- 9月19日　連携不足を理由に、笠松副市長と富田教育長の解任・罷免決議案を最大会派が議長に提出。
- 10月10日　「コミュニティ・スクール」に関する研修を実施。「本日から新しい市教委が始まる」と教育長。
- 10月31日　連携不足の責任ありと最大会派から指摘されていた、笠松副市長が突然の退任。
- 11月1日　教育長に対する罷免決議案の取り下げ。
- 12月中旬　市長が私的つながりがある業者プレゼンを主宰し、市教委職員が同席。教育長に相談ないまま、市長が同職員に対してプレゼン内容の予算を要求するように具体的に指示。

平成26年

- 2月24日　市長が強引に進める事業を「不透明」として、予算投入に対して教育長が疑問を呈した。
- 3月14日　「市長のコンプライアンス順守を求める決議案」が議会で否決。教育長が疑問を呈していた事業予算も議会を通過。
- 3月20日　体調不良を理由に月末での辞職願を提出。市長は慰留せずに即日同意。

朝の駅前活動サポーターを募集しています！

堅田駅、おごと温泉駅、大津京駅、膳所駅、小野駅を中心に、早朝の6時30分から8時頃まで、会報誌の配布や演説をしています。

30分間でも、1時間でもボランティアで、サポートして下さる方がおられましたら、大変嬉しく思います。

詳細は、藤井議員まで、お問い合わせ下さいませ。

fujii@fujiitetsuya.jp